

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

にじいろ保育園みなとみらい

横浜市西区みなとみらい4-7 M.M.ミッドスクエア3階

運営主体：株式会社 サクセスアカデミー

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～4 ページ
分類別評価結果	5～16 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	17～23 ページ
利用者本人調査分析	24～25 ページ
事業者コメント	26 ページ

2011年4月8日 作成

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	にじいろ保育園みなとみらい（保育所）		
事業所への 報告書提出日	2011年3月22日	評価に要した期間	8ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

評価方法

1、自己評価 実施期間 2010年8月上旬～11月下旬	<p>園長から職員会議で自己評価の趣旨を説明し、記入期限を定めた。</p> <p>乳児部・幼児部において各項目について、主任、リーダーがポイントについての説明をし、意見交換を行い、職員一人ひとりが自分の言葉で記入した。</p> <p>園長が、その結果をまとめた。</p>
2、利用者家族アンケート調査 実施期間 2010年11月1日～14日	<p>全園児の保護者（70世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡して配付した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
3、訪問実地調査 実施日：第1日 2011年1月11日 第2日 1月14日	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：書類調査。園長・主任・運営法人本部職員に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 昼食：幼児・乳児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：各クラス担任保育士6名、看護師、栄養士、非常勤職員、主任に個別に面接調査。 その後、園長・主任・運営法人本部職員に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
4、利用者本人調査 実施日：第1日 2011年1月11日 第2日 1月14日	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

「にじいる保育園みなとみらい」は、みなとみらい線みなとみらい駅より徒歩1分の「みなとみらいミッドスクエア」3階にあります。ミッドスクエアは2007年（平成19年）に建設された31階建のマンションで、1階はコーヒー店やビデオショップ等、2階はクリニック等のメディカルフロア、3階は子育て系施設が複数入っているフロアです。オフィスやマンション、ランドマークタワー等の高層ビルが立ち並んでいる地域ですが、帆船日本丸や、横浜美術館前の噴水広場、広い芝生のある海辺の公園「臨港パーク」なども近くにあり、園児に人気の散歩コースとなっています。

開設は2008年（平成20年）4月で、開園時間は平日午前7時～午後8時、土曜日は午前7時～午後6時です（延長保育時間を含みます）。2010年（平成22年）秋に増床工事をしたため、定員が60名から、90名（0歳から5歳まで）に増えました。

運営法人は、株式会社サクセスアカデミーです。法人は保育園・学童クラブ・児童館の運営、病院・企業・大学内の保育受託サービス、保育施設運営のコンサルティングサービス等を、首都圏を中心に手広く展開しています。法人直営の「にじいる保育園」は現在22園となっています。

運営法人本部では、全にじいる保育園共通の保育理念として「～みんなが輝く社会のために～陽だまりのような保育園、地域と共に育つ保育園、子どもとともに輝いていける保育園」を掲げています。保育目標は、保育理念に基づいて「～みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛～ 信頼・安定・共感」です。これらを根底に置いて、「にじいる保育園みなとみらい」では、「体を作る」「心を耕す」「生活を楽しむ」「分かち合い」という4つの活動に独自に取り組んでいます。

高く評価できる点

1. 子どもたちは様々な経験をしながら和やかに過ごしています

子どもたちは一人ひとりしっかり受けとめてもらい、落ち着いて過ごしています。0歳児クラスの時から音楽リズムを取り入れ、2歳児クラスになると詩の暗誦や、「手しごと」（縫いさし等）の活動が始まります。また、幼児クラスになると、編み物や機織り、梅干しや味噌づくり、広いホールの雑巾がけ、お話し会、お茶会等々、4つの活動は多種にわたり、日々様々な経験を積んでいます。

乳児クラスでは、保育士の仲立ちで集団遊びが年齢と共に活発になっています。ごっこ遊びでは、1歳児は電車に魔法をかけてチョコに見立てたり、2歳児は積木を組み合わせて掃除機に見立てたり、様々な発想が出てきます。おしゃべりも活発で「ふくろうは動物ではなくお化けだ」と話が盛り上がったりもします。3歳児は木の棒を持って、太鼓やバイオリン、笛等に見立て、音楽隊ごっこをしていました。発想力の豊かな子どもたちに育っています。

幼児は生活習慣がしっかり身に付いていて、保育士の簡単な言葉がけで一日が自主的に流れています。生活のルールも理解していて、ワンルームを低い棚で仕切っただけの3つのクラスですが、互いの声や音は全く邪魔になりません。3歳児クラスから当番活動が始まり、4歳児は給食時に一人ひとりのトレイにご飯やおかず、汁物、デザート等をセットして慎重に運びます。5歳児になると、給食当番のほかに、各クラスのゴミを集めて捨てたり、郵便ごっこで子どもたちが玄関のポストに入れた手紙を配達したり、音楽リズムの準備や後片付けを手伝ったりする姿が見られました。子どもたちは職員に見守られて和やかに過ごしています。

2. 保育士は実践を主にした園内研修で力を培っています

開設時より3年計画で、座学ではなく実践を踏まえた園内研修に力を入れてきました。

誕生カードやプレゼントを手作りすることも、研修に位置付けています。園長が一枚の布の使い方を一人ひとりに指導します。ただ作るのではなく、一枚の布に心を込め、自分の思いが子どもと保護者に伝わるように愛情を込めて真剣に作ることを指導しています。その結果、出来たカードで子どもや保護者と喜びを共有し、保育の感動を味わう経験となり、さらに子どもの「心を耕す」活動として位置付けている「手しごと」の縫いさしを指導する力も養われてきました。「愛情を込めて頑張って作り、喜んでもらえた」とはりきる職員の声があり、保護者アンケートの自由意見欄にも「お誕生日の手作りのカードは涙が出そうなくらい嬉しかったです」という喜びが書かれています。

また、子どもの心を惹きつける会話力・表現力の育成を目的として、絵本の読み聞かせ、素話、詩の朗読、人形劇の人形づくり、舞台づくり等の実践に取り組んでいます。毎週行っている「お話し会」は保育士が順に当番になり、園長・主任、他の職員の前で子どもたちに素話や読み聞かせをする実践研修の場ともなっています。

保育士はこれらの研修で培った力を一生懸命に保育の現場に活かしています。

3. 地域との関わりが着実に育ってきています

高層ビルが立ち並ぶ開発中の新しい街で、小学校も幼稚園も保育園も無かったみなとみらい地域に、初めての保育園として3年前に開設されました。居住用マンション群も建ったばかりで人間関係というものも無かった地域です。今後、地域間交流の拠点となりたい、また、ここに住む子どもたちが愛着の持てる地域にしていきたいという願いも込めて、園の4つの活動の一つとして「分かち合い」を据えました。当初、開設にあたって地域住民側から大きな反対がありましたが、様々な苦情やクレームの声に一つ一つ丁寧に対応しながら向き合い、地域の親子に向けた子育て支援として、地域の子どもたちといっしょにリズム運動をしたり砂場で遊んだりする交流保育や、赤ちゃん体操、離乳食の進め方の講習などを行ってきました。現在では、地域との関係は好転し、保育園の地域に向けた取り組みも少しずつ認められるようになりました。

特に、地域の保護者のリフレッシュ等のための一時保育は人気で、ほぼ毎日利用があります。また、園のお祭りやお茶会には地域の人も参加してくれました。園の方からも地域に出て行って共にマンションの防災訓練を行ったり、5歳児クラスは毎月地域の人と共に公園清掃をしたりしています。

そのほか、園として西区の子育て支援会議に出席し、藤棚地区センターでの子育て支援にも協力する等、ネットワークを広げています。

開設3年目で、既に地域との関わりが着実に育ってきていて、今後が期待されます。

4. 子どもたちに自然や命のぬくもりを伝える努力をしています

玄関を入ると、小さな「季節のテーブル」があり、折々の花や野菜、小さな生き物が、来る人を迎えます。玄関の棚には羊毛で本物そっくり手作りされた「三びきのやぎのがらがらどん」等の絵本に登場する動物や人形が置かれ、童話の世界の雰囲気を出しています。

マンション内の施設であるため園庭には恵まれませんが、ホールには大きな砂場が設置されていて、これは夏には室内プールに様変わりします。

保育室では蚕を飼い、繭をつむいでブーケを作りました。また、アゲハチョウ、オタマジャクシ、金魚などいろいろな飼育を経験し、成長によって変わる姿を見て、命について考える機会を持っています。園児の蒔いた稲を園長の家で育て、秋に園児が園長の家まで行って、刈り取り・脱穀を行って、クッキングに使う経験もしました。

そのほか、根の付いた野菜を見て触ったり、乾燥ひじきを見たり、また、5歳児クラスで園長が鱈の三枚おろしをして見せ、だしをとり、つみれを食する経験もしています。切り身の魚しか知らない子どもたちは、初めてまるごとの魚、そして血を見てびっくりしました。

自然や命のぬくもりを、そして本物を子どもたちに経験してほしいという願いを形にしています。

さらなる工夫が期待される点

保護者との日常的なコミュニケーションを重ねて、さらなる協力関係を

園として、保護者に対しては園日よりその他の情報提供のほか、「表現とリズムの発表会」「手しごと展」などで活動の様子を知らせ、懇談会や保育参加にはほとんど全員の保護者が参加しています。また、昨秋に定員が60名から90名に増えたためもあり、もっと保護者とのコミュニケーションを図ろうとのことで、自由参加型のおしゃべりの場「陽だまりの集い」も始めました。それらの様々な取り組みに対して保護者が理解・評価していることは、今回の第三者評価での保護者アンケートにも表れています。ただしアンケートの中で、「年間の保育や行事についての説明」「送り迎えの際の情報交換」の項目には不満が目立っています。年間の保育や行事についての説明に関しては“年間計画は初めに配付されるが、行事の内容や、保護者参加かどうかなどの細かい説明をもっと早くしてほしい”という要望がほとんどです。送り迎えの際の情報交換については、ほとんど全年齢のクラスの保護者から、“もっと会話がほしい”という要望が出ています。“親同士もきちんと大きな声で挨拶していない気がする”という意見もありました。

まずは保育士の側からの声かけや、保護者同士の会話を取り持つなど、今後も徐々にコミュニケーションを積み重ね、保護者とのごく普通の日常会話が日々豊かになることで、子どもたちにとっての環境をともに考えていける関係作りにつながるよう、今後が期待されます。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。




「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p>  <p>(1)保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2)保育課程は、保育の基本方針に基づき、保護者の実状などを考慮して作成されているか。</p> <p>(3)日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営法人本部の保育の理念は、 ～みんなが輝く社会のために～ 1．陽だまりのような保育園 2．地域と共に育つ保育園 3．子どもとともに輝いていける保育園 保育目標は、保育理念に基づいて、「みとめ愛(信頼)・みつめ愛(安定)・ひびき愛(共感)」としています。続けて6つの「あるべき子ども像」を掲げていて、一人ひとりが尊重される存在であることが示されています。 ・サービスの実施内容は、保育理念・目標を根底に置き、「体を作る」「心を耕す」「生活を楽しむ」「分かち合い」という4つの活動に取り組んでいます。 ・保育課程は、保育の目標を全職員が共有し、園の実情に合わせて作成しています。人と人との結びつきの薄いオフィス・マンション街という立地条件を考え、地域清掃や地域行事に積極的に参加したり、地域の人を園に招待したりする中で、社会への興味・関心を深め、自分の住む地域への愛着が持てるような内容も入れています。 ・交通の便の良さを活かし、電車やバスを使っでの活動も取り入れ、社会のルールを学ぶきっかけとしています。 ・保護者の実状を考慮して、長時間保育のねらいと配慮の項を保育課程に設けています。 ・指導計画は、子どもの意見や意思も汲み取って作成しています。子どもの年齢や理解度により、また、子どものその日の体調や落ち着きなどを考慮しながら、何に関心や興味があるか、何がしたいのかを汲み取っています。言語化できる子どもには納得できることを大切に、希望や意見を聞いています。 ・子どもが期待感をもって活動できるように、子どもの意見や反応を指導計画の見直しに活かし、計画には柔軟性を持たせています。

- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- (1)入園前に子どもの発達状況や課題を把握しているか。
- (2)新入園児受け入れ時の配慮を十分しているか。
- (3)子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。



- ・新入園児面接は、入園前に提出してもらう児童調査票（生育歴、アレルギーの有無、家庭状況、予防注射履歴等）をもとに、複数の保育士で行っています。必要に応じ、看護師・栄養士が相談にのる体制も整えています。
- ・面接時に把握された記録はカリキュラム会議でとりあげて全職員で共有し、個別指導計画に反映しています。
- ・入園時の短縮保育（ならし保育）については、子どもの保育経験の有無、生育歴、保護者の就労状況等を考慮し、保護者と個別に相談しながら行っています。
- ・0、1歳児の新入園児に対しては、基本的に個別に主担当者を決めますが、子どもの状態に合わせて柔軟に対応しています。
- ・在園児に対しては、気持ちを受け止められるように、子どもとの相性も考慮しながら保育士の役割分担を決めています。また、持ち上がりの保育士を1名残し、発達年齢に詳しい経験者をクラスに1名は配置する等の配慮をしています。
- ・乳児は月一回、幼児は3ヶ月に一回記載する「成長発達の経過記録」をもとにクラスで一人ひとりについて話し合い、指導計画の評価・見直しを行っています。また、職員会議でも子どもの様子等を話し合っ

- 3 快適な施設環境の確保



- (1)子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。
- (2)沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3)子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- ・園は31階建て高層マンションの3階部分にあり、園庭やベランダには恵まれません。室内にプール（夏以外は砂場に変身）を備え、広いホールもあります。床や内装は自然素材を多く用いて暖かみの感じられる園となっています。保育室は全て南に面していて大きな窓があり、陽光を十分取り入れています。
- ・玄関先には「季節のテーブル」を設けて小さな生き物、花や野菜を紹介したり、玩具や家具はできるだけ木や布などの自然素材の物を選び、ままごとコーナーの上に天蓋（レースカーテンの屋根）を設ける等して、全体的に落ち着いた雰囲気を作っています。
- ・清掃は「自己点検チェックシート」のマニュアルに従って行い、園内は清潔に保たれています。さらに職員の一人ひとりが自覚して、持ち場でないところにも気を配り「さっと一拭き」「ちょっと一手間」を心がけ、園内を常に清潔に保っています。
- ・園内には24時間の自動換気装置が備わっているほか、給食室換気口には脱臭装置を設置して迷惑臭を出さない配慮をしています。また、空気清浄機の設置や、日に数回窓を開けて自然換気もする等、快適な環境に配慮しています。
- ・沐浴設備、温水シャワーの設備があり、適切に管理、清掃されています。
- ・0、1歳児保育室には畳マットを敷いたり、2歳児保育室にはままごとコーナーや絵本コーナーを作り、カーペットやテーブル、椅子などを置いて、少人数で落ち着いて遊べる環境を意識して作っています。
- ・乳児保育室は広く、食べる場所と寝る場所は分けています。幼児は各保育室で食事をし、ホールで午睡をしています。
- ・音に関してはマンション住人に対して特段の配慮が必要なため、細心

	<p>の注意を払っています。子ども一人ひとりの声が聞こえる保育をモットーとし、「大声をださなくてもよい保育」を実践しています。観察時には、低い棚で仕切っただけの幼児保育室の各クラスの声や音は、それぞれ他のクラスに全く邪魔になっていませんでした。</p>
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p>  <p>(1)子ども一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しているか。</p> <p>(2)子ども一人ひとりの発達の段階に応じた対応をし、その記録があるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳から2歳までの子どもには個別指導計画を作成しています。特に、0,1歳児については、担任間で、あるいは園長も交えて話し合い、その子どもの育ちの過程を丁寧に押さえて個別指導計画を立てています。 ・幼児については、特別な課題のある場合、全職員の共通認識を必要とするため、個別指導計画を作成しています。 ・子どもや家庭に関する個人情報は、入園前に提出される児童調査票に記録されています。 ・入園後の子ども一人ひとりの成長発達記録としては、乳児は毎月、幼児は3ヶ月に1回「成長発達の経過記録」に記載しています。重要な申し送り事項は児童票と共に、進級時等に引き継ぎ・伝達をしています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p>  <p>(1)特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。</p> <p>(2)障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。</p> <p>(3)アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。</p> <p>(4)外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に配慮を要する子どもについては、日常的にあるいは職員会議で担任が報告し、全職員間の意見交換から導き出される方向性を、記録として残しています。それを日々の保育に役立て、指導計画にも反映しています。 ・様々な配慮を要する子ども全般に関連して、子どもたちには「いろいろな色や形や顔があって、みんな違って、みんな素敵だ」といった話を日頃からしています。 ・障がい児については年齢の枠にとらわれることなく、「身の回りのことが1人でできるようになること」「人との関わり方を知ること」を目標に、職員あるいは子どもたちの支援と関わりを含めた個別指導計画を作成しています。 ・障がい児に関しては区役所を相談窓口とする保健機関、療育機関と連携し、ソーシャルワーカーによる訪問観察や意見交換ができる体制があります。また、法人本部が外部委託している臨床心理士による相談を受けられる体制があります。 ・アレルギー疾患のある子どもには、医師による診断書の指示を受けて対応しています。誤食を防ぐために、他の子どもと違う色の食器とトレイを使用し、除去食材・代替食材が明記されたプレートを添えています。保育士は「これから さんの 除去食を出します」と声に出して他の保育士に確認してから、提供しています。 ・地域から、世界各国からの訪問者、見学者も多く、様々な事例から文化や生活習慣、考え方の違いを学び合っています。入園した文化の異なる親子に対しては、異国での不安な気持ちを察して、保護者にはおもてなしの心をもって対応し、子どもには「みんな違って、みんな素晴らしい」の精神を語り続け、一人ひとりが大切な存在であることを伝えていきます。


- 6 苦情解決体制



- (1)保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。
 (2)要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

- ・要望・苦情受付窓口は主任、解決責任者は園長であることを入園前の説明会の際に保護者に説明し、玄関に苦情解決システム図と第三者委員の氏名と連絡先を知らせています。また、運営法人本部と区役所にも苦情受付の窓口があること、横浜市福祉調整委員会等外部にも苦情受付窓口があることを、掲示等で知らせています。
- ・保護者に対して、意見箱「スマイルボックス」を設置するとともに、毎月、自由参加型のおしゃべりの場「陽だまりの集い」を開き、自由に意見や要望を語る場を提供しています。
- ・要望・苦情を受けた場合、ミーティングで、あるいは主任・リーダーを通してその日のうちに全職員に周知しています。場合によってはただちに全職員を集めて報告し、原因と対応策を検討し、再発防止に取り組みます。内容により運営法人本部に報告し、指示を受けて対応する体制もあります。
- ・苦情・要望は報告書に記載し、資料として保管しています。系列園で起きた苦情等の事例は、本部の系列園長会議で報告・対応策の検討をし、園に持ち帰り共有して解決に活かしています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p>  <p>(1)子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。 (2)遊びが一齐活動に偏らないよう配慮しているか。 (3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。 (4)子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。 (5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。 (6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中になされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各保育室には、積み木、ブロック、ままごとセット、ミニカー、ゲーム、絵本、手作りのおもちゃなど、材質や内容に配慮して年齢にあったおもちゃが置いてあります。保育室の棚はすべて子どもの目線に合わせた高さにしてあり、おもちゃを自由に取って遊べるようになっています。 ・ままごとセットや絵本の棚のそばには小さなカーペットやテーブル、椅子などを配置し、少人数で落ち着いて遊べる環境を作っています。 ・おもちゃは子どもの興味や成長に合わせて柔軟に内容を変えています。 ・子どもたちが自由に自分の遊びを楽しむ時間があり、カード遊びなどでルールを守りながら友だちと一緒に遊ぶ時間を持っています。 ・保育士は子どもたちの様子を見て、遊びに入れられない時には声を掛けています。また、意見が出た時は取り入れて集団活動へと発展させています。 ・子どもたちはゴーヤやイネの栽培をし、カイコやアゲハチョウ、オタマジャクシ、カニ、金魚、カブトムシ、クワガタの飼育をしています。 ・近隣の公園へ散歩に出かけ、季節の変化を身近に感じています。子どもが地域に関わる活動として、毎月地域の清掃活動に参加しています。 ・子どもたちは紙や色鉛筆、折り紙、絵具などいろいろな素材を使い絵や字を書いて遊んでいます。棒を楽器に見立てて演奏しながら歌ったり、輪唱をしたりするなど、歌やリズムを自由に楽しんでいます。 ・保育士はけんかを危険のないように見守り、解決できない時や片方の強い主張だけが通りそうな時などには間に入って仲立ちをし、けんか

の原因やその時の思いを、お互いに理解できるように援助しています。



- ・異年齢の関わりが持てるよう、クラス合同で散歩に行ったり一斉活動をしたりしています。幼児の保育室は低い棚で仕切っているオープンな造りなので、異年齢が常に交流でき、年下の子どもが年上の子どもの遊びをまねたり、年上の子どもが年下の子どもを手伝ったりする姿が見られます。
- ・健康増進のための取り組みとして、幼児は毎日の雑巾がけや、週1回の「幼児音楽リズム」を行っています。「幼児音楽リズム」には乳児が参加することもあり、子どもたちは音楽に合わせて体を元気に動かしています。この機会に保育士は、子どもの身体の発育を確認し、段階的な発達を促すようにしています。戸外に出られない時は園内の砂場で遊んだり、ホールで鉄棒・マット・飛び箱等を使用して、運動能力を高めています。

- 1 保育内容[生活]



- (7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8)食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。
- (10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。
- (12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

- ・授乳や離乳食は、優しく声をかけながら、子どものペースに合わせています。幼児の食事は、苦手な食材は少しでも食べるように保育士が声を掛け、各自の食欲に合わせて食べることができるように配慮しています。
- ・食事のバランスに興味を持たせるため、給食の食材を「海の物」「山の物」「畑の物」に分け、食事の前に話をしています。
- ・食育の年間計画があり、子どもたちは食材のものと形の学んだり、食べ物を作ったりしています。たとえば、カボチャなどの根や葉の付いた姿を見たり、アジをさばくところを見た上で、そのアジを材料につみれ汁を作ったりしています。また稲の刈り取りと脱穀を行い、とれた米を炊いてもらっておにぎりにする、梅干しや味噌を作ってみる、できたものを食べるなど、様々な体験を通して食事に対する理解や関心を深めています。また、クッキングの時間には旬の素材を使い、ヨモギ団子を作ったり、ジャガイモからでんぷんを取ってわらび餅を作ったりしています。
- ・食材はなるべく国産の季節感のあるものを使っています。食器は子どもの年齢や発達に合った大きさや形で、乳児から強化磁器のものを使っています。
- ・七夕にはそうめん、節分には恵方巻きを食べるなど、伝統的な食文化を大切にしています。クリスマスや卒園時にはバイキング形式の行事食を取り入れて、楽しく食事をする工夫をしています。
- ・栄養士は子どもの喫食状況を、子どもたちの食事をする姿を見たり、直接子どもたちから話を聞きながら確認し、味付けや切り方、硬さなどを検討しています。
- ・献立表は前月の末に、普通食、離乳食の初期、中期、後期、完了期、夕補食用が配付されています。給食便りを毎月出して、旬の食材や離乳食の進め方などの情報を伝えています。
- ・保護者が給食の内容や量を確認できるように、玄関のケースに給食のサンプルを展示し、懇談会や保育参加の際には試食会を行って栄養士が質問に答えています。また、毎月、人気メニューのレシピを玄関に

	<p>置き、保護者が自由に持ち帰れるようにしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午睡は静かな環境で行っています。寝付けない子には寄り添い、眠れない場合も30分は横になって休息を取ることを勧めています。乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防対策のため、0、1歳児は10分おきに体に触れ、呼吸などの様子をチェックしています。5歳児は就学準備のため、10月からは一斉に午睡をすることはなく、一人一人の状態に合わせています。 ・排泄には個人差があることから、一人ひとりのリズムをとらえ、排泄の間隔が開いた段階で保護者と相談の上、トイレトレーニングを始めています。園での排泄状況は連絡帳で保護者に知らせています。子どものやる気を大切に、失敗したときにも叱ったりせず、速やかに対応しています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p>  <p>(1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。</p> <p>(2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。</p> <p>(3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理に関するマニュアルがあり、全職員に配付されている「保育ガイド」にも健康状態の把握や病気の時の対応について載っています。 ・子どもの健康に関しては、入園時の調査でアレルギーや既往症等を把握していて、職員が随時確認できる体制になっています。 ・園での子どもの健康状態は、連絡帳に記入したり、送迎時に口頭で保護者に伝えていきます。一人ひとりの健康診断、歯科健診の結果は、当日に連絡帳で保護者へ伝え、記録は個人ファイルにまとめ、保管しています。 ・歯磨きは2歳を目安に始め、3歳前半までは保育士が仕上げ磨きをしています。幼児は年に1度歯科医による歯磨き指導を受けています。 ・感染症対策マニュアルがあり、登園停止基準や対応について明記しています。 ・入園のしおりにも感染症についての記載があり、保護者へも周知しています。感染症が発生した場合はその日のうちに園内に掲示して注意を呼び掛け、保健だよりでも対応法などを知らせています。職員は感染症に関する最新情報をミーティングや回覧で共有しています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p>  <p>(4)衛生管理が適切に行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理マニュアルに施設、設備、玩具、遊具などの清掃・消毒等について記載されています。それに基づいたチェック表があり、清掃や消毒が適切に行われ、清潔が保たれています。 ・マニュアルの見直しは運営法人本部の看護師会議で行い、変更内容は、本部の系列園長会等で報告があり、各園に持ち帰り、職員に周知しています。消毒液の作り方などは、すぐに実行できるよう職員会議等で研修をし、汚物処理セットを作るなどして具体策を取っています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- (5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。
- (6)事故や怪我の発生時および事後の対応体制が確立しているか。
- (7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。


- ・安全管理に関するマニュアルがあり、マニュアルには事故、地震、火災、不審者などの対応法が書かれています。
- ・地震対策として、低い棚でも、重いものを上に置かないように気を付け、高い棚は壁際に設置して固定したり滑り止めを付けるなど、転倒防止策を講じています。
- ・地震、火災、不審者侵入などを想定して、避難誘導や消火、通報の訓練を定期的に行っています。職員は救急救命法の研修を受けています。
- ・地域、関係機関の緊急連絡先は事務所内に掲示してあります。緊急メーリングリストがあり、災害の際に迅速に情報提供する体制になっています。
- ・園周辺の科目ごとの医療機関の外来時間や電話番号のリストと地図がしっかりとファイルされています。また、区役所、警察、消防などの公的機関のほか、自治会や管理組合などの連絡先が記載されたリストも備えています。
- ・子どものけがについては、軽傷であっても保護者に状況を伝えています。「事故報告書」や「ひやりはっと」に記録し、職員会議で検証して再発を防止しています。また、系列園で起きた全ての事故について、本部の系列園長会で報告があり、職員に回覧などで周知しています。
- ・玄関はオートロックなので、インターフォンで人物確認をした上で開錠する仕組みになっています。また、警備会社と契約を結んで、緊急通報体制ができています。散歩の際も、携帯電話等を持って出かけています。不審者侵入を想定した訓練も行っています。
- ・不審者等の情報は、区役所からのファックスや、スクールサポーター（巡回してくれている地域の警察官OB）、マンションの警備員などからも得られています。

- 3 人権の尊重





- (1)保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。
- (2)必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。
- (3)個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。
- (4)虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (5)性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- ・職員の声は優しく静かで、子どもたちをせかしたり強制したりすることはありません。子どもの様子を見ながら穏やかに話しかけ、丁寧に話を聞く姿が見られます。
- ・子どもの人権に配慮した保育を行うために、「保育ガイド」を基に研修を行うとともに、言葉遣いなどをミーティングで検討しています。
- ・部屋の端にテーブルや椅子などを配置し、一人で静かに遊ぶことができる環境が作られています。子どもと落ち着いて話をする必要がある時は、事務室等で行っています。
- ・個人情報の取り扱いや守秘義務に関してマニュアルがあり、職員研修を行い、職員会議などでも折りに触れ注意を促しています。
- ・入園時に個人情報の取り扱いについて保護者に説明し、写真の使用に関しては承諾書ももらっています。
- ・事務室内の個人情報に関する書類は施錠できる棚に保管し、園外持ち出し禁止となっています。
- ・虐待に関しては定義や対応について研修を行っています。子どもの様子などから推察し、関係機関と連携を取って、虐待の防止に努めています。
- ・保育の中で性差による区別をすることのないように、職員会議で性差




	への無意識の偏見について話し合っています。
<p>- 4 保護者との交流・連携</p>  <p>(1)保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。</p> <p>(2)個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。</p> <p>(3)保護者の相談に応じているか。</p> <p>(4)保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。</p> <p>(5)保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。</p> <p>(6)保護者の自主的な活動の援助や意見交換を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念や保育方針を玄関に掲示し、入園のしおりやホームページに掲載しています。入園の際や懇談会で園長が保護者に説明し、園だよりでも具体的に伝えています。 ・クラスでの様子が分かるよう、その日の活動内容を玄関に掲示しています。全園児が連絡帳を持ち、乳児は毎日、幼児は必要に応じて保護者との情報交換を行っています。 ・個人面談は年1回、乳児と幼児で時期を分けて全家庭を対象に行っているほか、保護者の希望によっても随時実施しています。クラス懇談会は年2回実施しています。 ・保護者からの相談を受ける際は、プライバシーに配慮しています。必要があれば保護者の同意のもと、関係機関や運営法人本部が外部委託している臨床心理士を紹介し、継続的にフォローをしています。 ・園での子どもの様子を伝えるために、園だより・クラスだよりを毎月発行しています。保育参加の期間には同時に「手しごと展」を行い、縫いさしや編み物など子どもの作品を展示して、日常の活動を紹介しています。 ・保護者が出席しやすいように、年間行事の予定を前年度末に知らせています。保育参加の期間を1週間とって実施し、ほとんど全員が参加しています。また、保育参加や保育参観は保護者から希望があれば、随時行っています。 ・保護者間の連絡用ウォールポケットを玄関のそばに設置して交流を促し、希望があれば保護者に保育室の貸し出しをしています。 ・月に1~2回、「陽だまりの集い」として水曜の降園時に園長と保護者の交流会を持ち、保護者の意向を聞いています。そのほか年1回運営委員会を開き、園の運営状況などについて説明し、保護者代表の意見を聞いています。



評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>  <p>(1)地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2)地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への育児支援事業として、一時保育、交流保育等を行っています。一時保育や交流保育の利用者からアンケートを取ったり、地域住民に対する育児相談の中から、地域の育児ニーズを把握しています。また、西区子育て支援会議において、地域の子育て支援ニーズについて検討会を行っており、園長が出席しています。 ・前年度に把握した支援ニーズを年度初めの職員会議で話し合い、それを基に、今年度の交流保育の内容と時期を検討し、年間計画を決めて取り組んでいます。 ・一時保育は特に人気で、ほぼ毎日利用者が来ています。ランチ・音楽リズム・プール・砂場などでの交流保育を行い、また、講習会としては、赤ちゃん体操の講習や、ランチ交流の際に離乳食の進め方の講習等を行っています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・藤棚地区センターでの西区合同育児講座「げんきっ子広場」に協力し、未就園児とその親に、遊び方を教えています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p>  <p>(1)地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。</p> <p>(2)相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日に育児相談を行っていて、内容や対応について記録し、フォローを行っています。水曜日以外でも、相談があれば受け付けています。 ・育児相談は園長が担当し、相談内容によって行政機関や医療・療育機関、地域の団体などにつなげることもできる体制になっています。

評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>  <p>(1)保育園に対する理解促進のための取り組みを行っているか。</p> <p>(2)子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園での「秋まつり」や「お茶会（秋の交流会）」に自治会を通して案内を回覧してもらい、近隣住民を招待しています。「秋まつり」は地域の親子が対象で、お店を出して食べ物や遊びを提供し、盆踊りなどを行っています。 ・毎月、地域の公園愛護会の公園清掃活動に5歳児が参加しているほか、地域に備品を貸し出したり、マンション自治会の防災訓練にも参加し、地域住民との良い関係を築いています。 ・地域の文化・レクリエーション施設として「横浜美術館」や「帆船日本丸」、「横浜みなと博物館（旧マリタイムミュージアム）」などを利用し、子どもたちが地域への理解を深めるきっかけとしています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p>  <p>(1)将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。</p> <p>(2)利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園の情報は、横浜市こども青少年局や、西区のホームページ、園のホームページに掲載されています。園のホームページには、園の理念や保育室の写真を載せています。 ・西区地域子育て支援拠点「スマイル・ポート」にパンフレットを置き、藤棚地区センターでの合同育児講座の際にも情報提供をしています。 ・電話による問い合わせには園長・主任が対応し、園の基本方針や見学が可能な事を伝えています。曜日や時間帯は見学者の希望に合わせています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p>  <p>(1)ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。</p> <p>(2)実習生の受け入れを適切に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや実習生の受け入れは園長が担当し、マニュアルに従って守秘義務などの説明を行っています。 ・月1回、朗読ボランティアなどに来てもらっています。 ・保育士養成学校等から実習生を受け入れています。実習生には実習内容を踏まえて、クラス担任が進め方の相談に乗っています。 ・ボランティアや実習生とは終了後の話し合いがあり、園についての意見や感想を聞いて、参考にしています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p>  <p>(1)保育園の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。 (2)職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。 (3)非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園の理念・方針を踏まえた保育を実施するための人材育成計画は運営法人本部が作成しています。 ・園内での人材育成としては、職員会議やカリキュラム会議をそれにあてています。保育目標に基づいて園が力を入れている具体的な4つの活動「体を作る」「心を耕す」「生活を楽しむ」「分かち合い」を、職員が肌で感じて学んでいけるように、園長・主任はまず自らが実践することを大切にしています。 ・研修は、運営法人本部での研修、外部研修、園内研修があります。運営法人本部の研修は、新任研修・現任研修、スキルアップ研修、系列園での実地研修があります。外部研修としては、横浜市こども青少年局や白峰学園保育センター主催の研修等に積極的に参加しています。 ・園内研修としては、開設時より3年計画で、座学でなく実践を中心とした研修を実施しています。例えば、誕生カードやプレゼントを手作りすることも、研修に位置付けています。園長が一枚の布の使い方を一人ひとりに指導します。ただ作るのではなく、子どもの姿を思い、一枚の布に心を込め、季節感のある構成をし、愛情を込めて真剣に作ると、必ず子どもや保護者と喜びを共有することができる、そのことで保育の感動を味わう経験となることを目指しています。 その他の例としては、子どもの心を惹きつける会話力・表現力の育成を目的として、絵本の読み聞かせ、詩の朗読、素話、人形劇の人形づくり、舞台づくり等の実践に取り組んでいます。毎週行っている「お話し会」は、保育士が順に当番になり、園長・主任、他の職員の前で子どもたちに素話や読み聞かせをする実践研修の場ともなっています。 ・非常勤職員にも「保育ガイド」（基本理念や方針、行動規範など、業務内容から心構えまで詳細に記載されている業務マニュアル）を配付し、運営法人本部で新任研修をしています。 ・非常勤職員の資質向上を図るため、出勤時間やその日の状況によって、園長または主任、乳児リーダー・幼児リーダーが日常的に指導にあたっています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p>  <p>(1)職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議で、サービスの見直しについて意見を出し合い、個々の職員の技術向上を図っています。普段の保育現場でも、園長が随時観察やフォローに回って職員の気づきを促す働きかけをしたり、個別に面接を行ったりして、園全体の保育水準を向上させる取り組みをしています。 ・系列保育園での実地研修で、互いの工夫や改善したサービス事例を学び合うことが出来ます。また、外部研修等で収集した事例をもとに、職員会議や日々のミーティング等で、サービス向上を目指す話し合いをしています。 ・法人が外部委託している臨床心理士や、地域の保育園の園長から、保育技術の評価・指導を受ける仕組みがあります。



- 3 職員のモチベーション維持




(1)本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

- ・職員の経験や能力を考慮して、行事の役割担当者等を決めています。また、各種会議の司会と書記を毎回持ち回りにして、全員が園全体の運営に関心を持つように配慮しています。
- ・園長は「業務確認シート」をもとに、定期的に、また必要時は随時、職員と面接し、相談にのり、個々の職員の満足度や要望を把握するようにしています。職員の意向調査や満足度調査は運営法人本部が実施しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p>  <p>(1)事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。</p> <p>(2)サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織や職員の守るべき法・規範・倫理等は、入社時に配付される「保育ガイド」に明文化し、全職員が新任研修や職員会議で学んでいます。 ・経営・運営状況等の情報は、玄関で関係者が常時閲覧できるようにしています。また、園の運営委員会でも説明しています。 ・環境への考え方と取り組みは事業計画書に明文化していて、ゴミの減量化やりサイクル、節水、節電等を実践しています。 ・ゴミ減量化については、各クラスでゴミを分別し、また、広告やコピーなどの裏紙を使って絵を描いたり、折り紙に利用したりしています。 ・玩具はできる限り自然環境に戻せる物（木製品、木の実、羊毛、布等）にしています。 ・リサイクルについては、牛乳パックは紙漉きの材料にしたり、長椅子や平均台等を手作りする材料にしたりしています。ペットボトルやプリンカップは砂遊びや水遊びに再利用しています。また、子どもが理解できるリサイクルと社会貢献として、「エコキャップ運動」に取り組んでいます。 ・夏はゴーヤを栽培して室内に緑のカーテンを作りました。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>  <p>(1)保育園の理念や基本方針等について職員に周知されているか。</p> <p>(2)重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。</p> <p>(3)主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念・基本方針は、全職員に配付している「保育ガイド」に明文化していて、玄関等にも掲示しています。 ・月一回の職員会議で指導計画を持ち寄る際に、保育理念・基本方針を再確認し、周知しています。また、クラスリーダーが日常の中でも再確認をして、職員の理解を深めるようにしています。 ・重要な意思決定その他について保護者と話し合う体制としては、定期的な運営委員会があります。 ・重要な意思決定の例としては、今年度、園の増床工事とそれに伴う定員数の増加という件がありました。これに関しては運営委員会に於いてだけでなく、運営法人本部が保護者一人ひとりに手紙で説明し、本部担当者と園長が直接様々な質問に答え、話し合い、理解を求めてきました。 ・主任クラスの職員の育成に関しては、運営法人本部に育成プログラムがあります。園内では園長が計画的に主任育成を行い、リーダー育成は園内研修等を通して園長と主任があたっています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・主任はフリーの立場で全職員と接し、必要に応じて業務のフォローをしながら個々の職員の業務状況を捉えています。また、リーダー職員との良好なコミュニケーションによって、協力して園全体の状況を把握しています。 ・主任は相談や悩みことが話しやすい雰囲気心がけ、一人ひとりの職員に応じた声がけに配慮し、職員の体調にも気を配っています。また、職員の努力している点や良いところを認め、業務上の不安や人間関係の悩み等も受け止め、園長と共に職員への支援を行っています。
<p>- 3 効率的な運営</p>  <p>(1)外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2)保育園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営に関わる情報については、主に運営法人本部が情報の収集・分析を行い、それが各園に配信される仕組みになっています。 ・重要な情報については、本部で行う系列園長会議で討議し、その結果を職員会議で報告し、重要改善課題として設定しています。 ・本部が中長期達成目標を掲げ、市場の現況や行政の動向等を分析・協議し、事業計画の策定をしています。にじいろ全保育園のサービスの向上、保育の質の向上についても系列園長会議で検討しています。 ・次代の施設運営に備え、本部で主任をはじめとする職員の研修を行い、幹部職員の後継者を育成しています。園内では園長・主任が職員研修を通してリーダーの育成に力を入れています。 ・運営に関して、提携企業やコンサルティング会社等の外部機関や専門家の意見を取り入れています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2010年11月1日～14日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 80.0%（70枚配付、56枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...11人、1歳児クラス...6人、2歳児クラス...11人、3歳児クラス...10人、
4歳児クラス...9人、5歳児クラス...9人

同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。
文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、
「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

まとめ

保育園の保育目標や園目標について、78%の保護者が「良く知っている」「まあ知っている」と答えています。そのうちの95%が「賛同できる」「まあ賛同できる」と回答していることから、多くの方が賛同していると考えられます。

満足度が高かったのは、「問7 職員の対応：あなたのお子さんが大切にされているか、お子さんは園生活を楽しんでいるか」、「問2 入園時の状況：入園時の対応」、「問4 遊び：園のおもちゃや教材について」などです。

不満が多かったのは、「問3 年間計画：年間の保育や行事についての説明」、「問4 遊び：戸外遊びを十分にしているか」、「問6 園と保護者との交流：送り迎えの際の情報交換」、「問3 年間計画：年間の保育や行事に保護者の意見が生かされているか」の項目です。

園の総合評価は、満足度93%で高い数値となっています。子どもを大切にする園の方針と、園生活を楽しんでいる子どもたちの様子は、保護者に良く理解されています。

自由意見欄には、「一人ひとりの子どもにきめこまやかに丁寧に対応してもらっている」、「年間を通していろいろな行事があり子どもが楽しみにしている」、「子どもが楽しんで通っている」、「安心して預けられる」、「とても温かい気持ちのこもっている園でとても感謝しています」などの声が多く寄せられています。

一方、各項目についての要望としては、「年間の予定は早くもらっているが、実際の行事内容・持ち物の準備・親の参加等についてのお知らせが遅い」、「運動会を小学校の園庭を借りるなどして、戸外でやってほしい」というものがいくつかありました。また、遊びに関して「戸外活動や散歩の回数・時間を増やして欲しい」という意見も複数ありました。保護者への対応については、「送り迎え時に職員の方と会話する機会があまり無い」、「毎日の子どもの様子を教えてほしい」、「対応する人や時間帯による」、「もう少し活気や暖かみのある園になってほしい、親同士もきちんと大きな声であいさつしていない気がする」などの意見が見られました。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

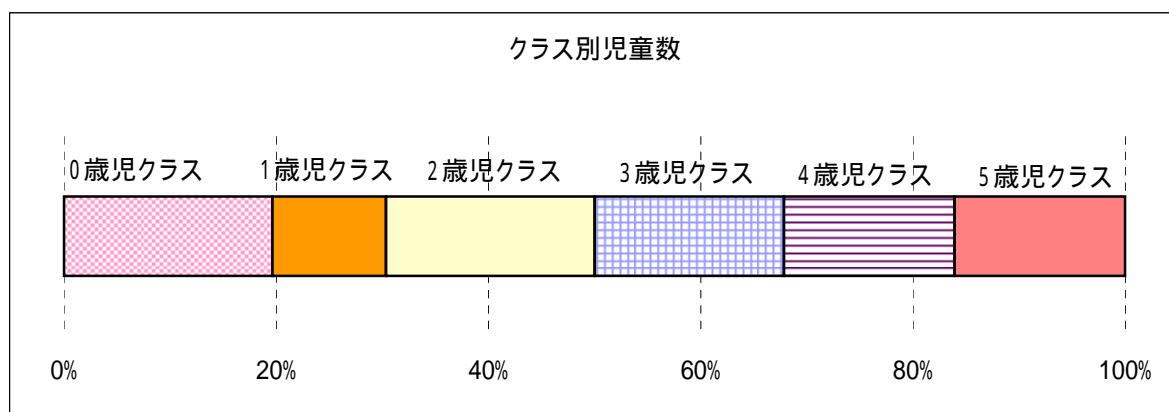
実施期間： 2010年 11月1日～11月14日

回収率： 80.0% （回収56枚 / 配布70枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
56	11	6	11	10	9	9	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



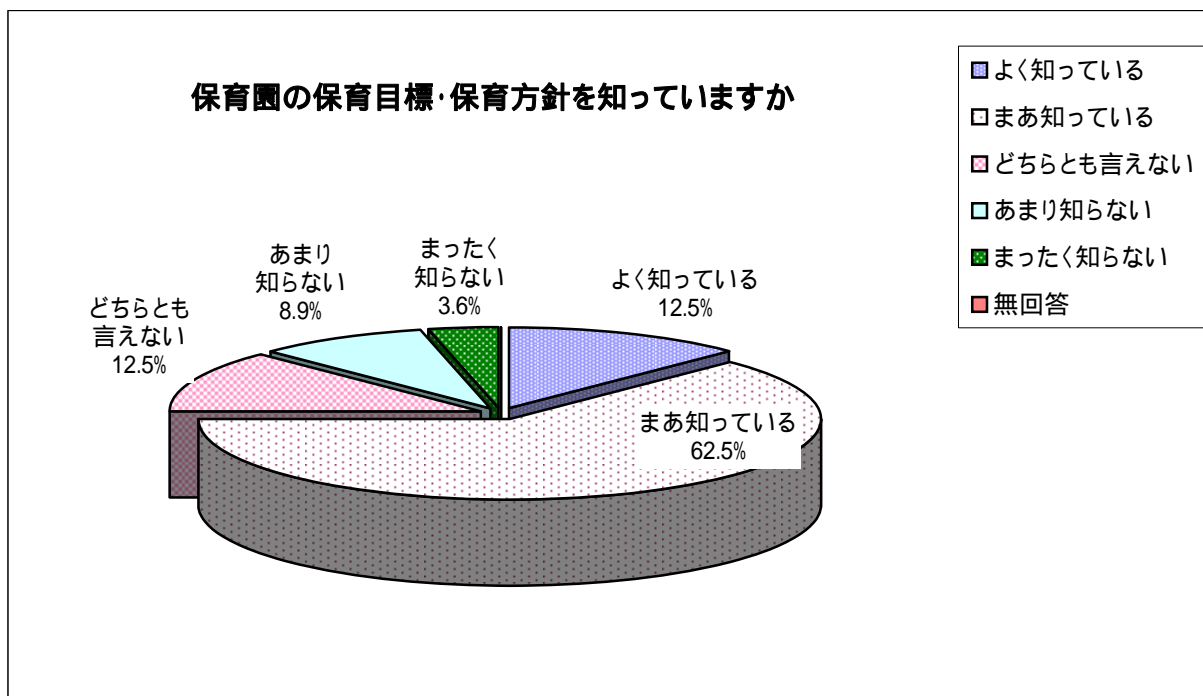
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	12.5	62.5	12.5	8.9	3.6	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

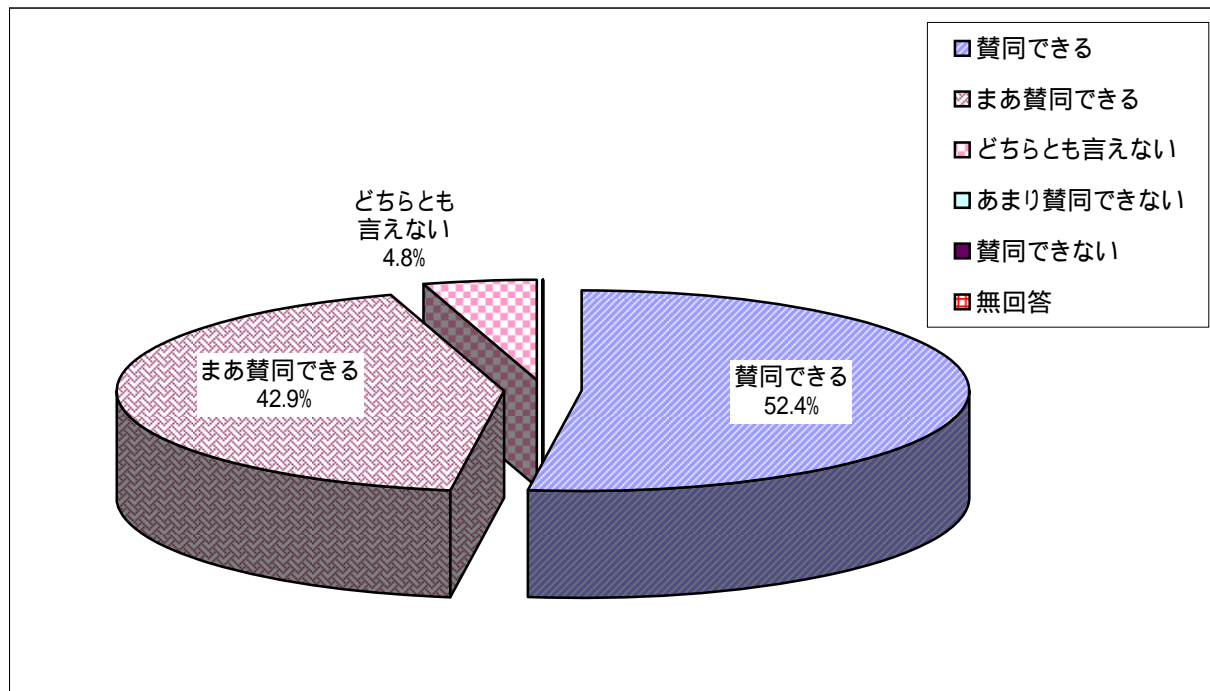


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	52.4	42.9	4.8	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

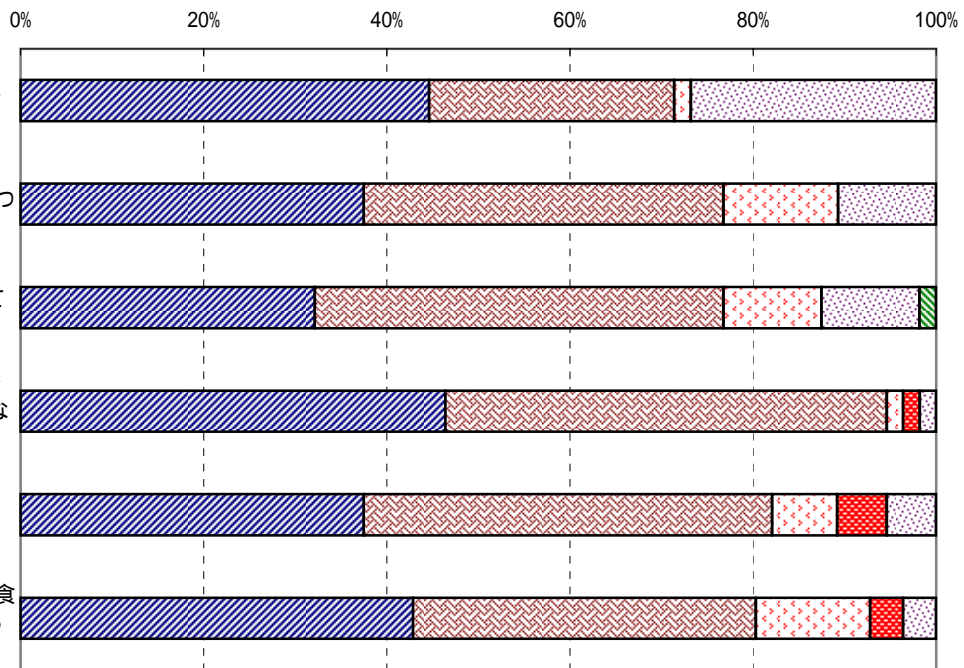
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	44.6	26.8	1.8	0.0	26.8	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	37.5	39.3	12.5	0.0	10.7	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	32.1	44.6	10.7	0.0	10.7	1.8	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	46.4	48.2	1.8	1.8	1.8	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	37.5	44.6	7.1	5.4	5.4	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	42.9	37.5	12.5	3.6	3.6	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



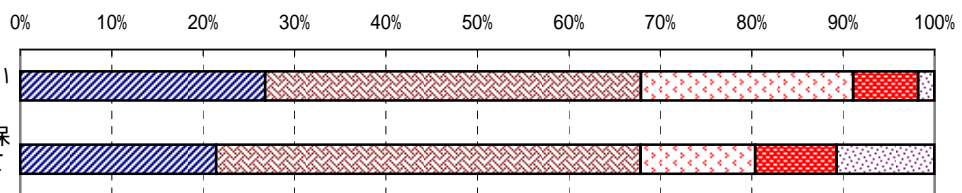
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	26.8	41.1	23.2	7.1	1.8	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	21.4	46.4	12.5	8.9	10.7	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



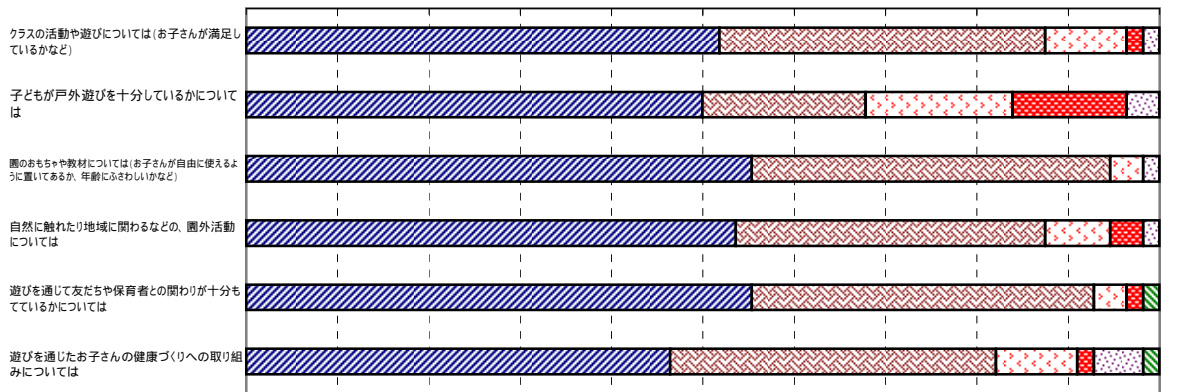
問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	51.8	35.7	8.9	1.8	1.8	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	50.0	17.9	16.1	12.5	3.6	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	55.4	39.3	3.6	0.0	1.8	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	53.6	33.9	7.1	3.6	1.8	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	55.4	37.5	3.6	1.8	0.0	1.8	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	46.4	35.7	8.9	1.8	5.4	1.8	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

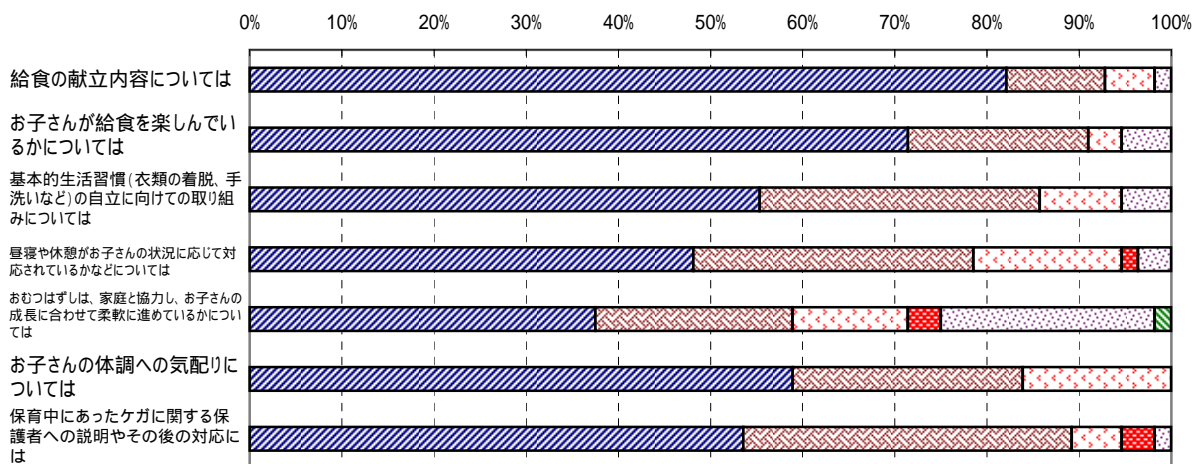


(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	82.1	10.7	5.4	0.0	1.8	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	71.4	19.6	3.6	0.0	5.4	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	55.4	30.4	8.9	0.0	5.4	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	48.2	30.4	16.1	1.8	3.6	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	37.5	21.4	12.5	3.6	23.2	1.8	100
お子さんの体調への気配りについては	58.9	25.0	16.1	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	53.6	35.7	5.4	3.6	1.8	0.0	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



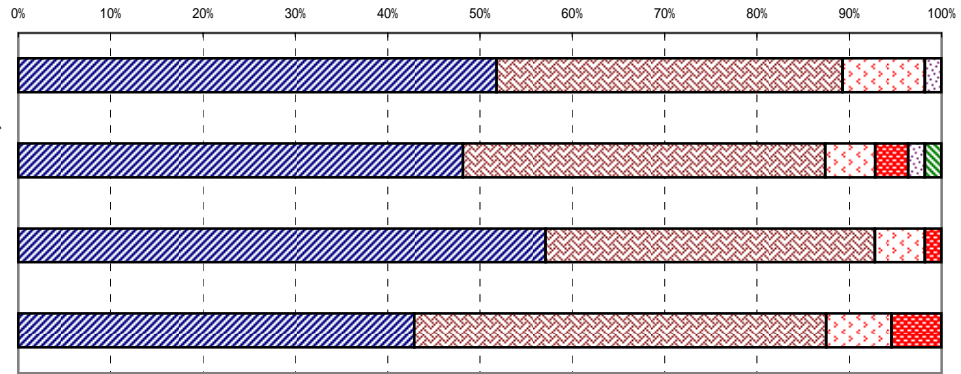
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	51.8	37.5	8.9	0.0	1.8	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	48.2	39.3	5.4	3.6	1.8	1.8	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	57.1	35.7	5.4	1.8	0.0	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	42.9	44.6	7.1	5.4	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



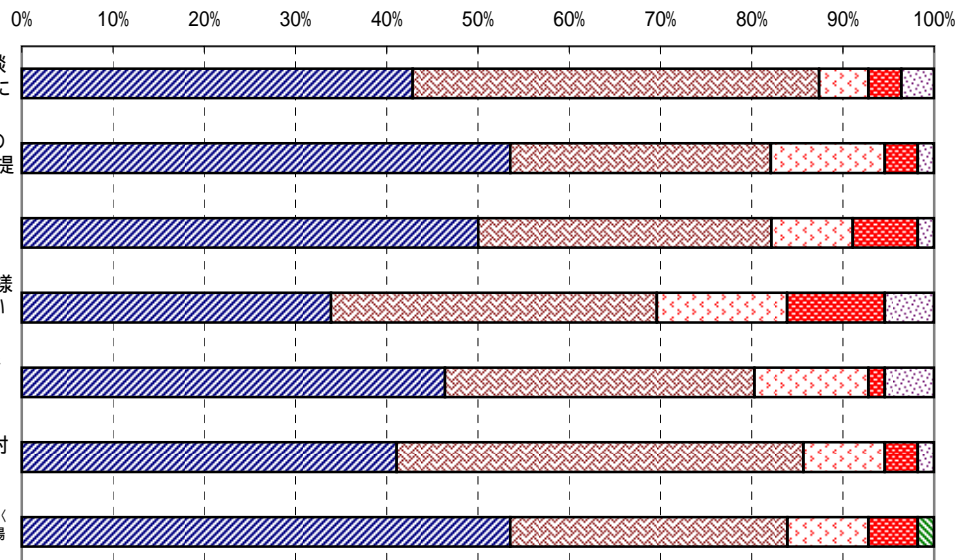
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	42.9	44.6	5.4	3.6	3.6	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	53.6	28.6	12.5	3.6	1.8	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	50.0	32.1	8.9	7.1	1.8	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	33.9	35.7	14.3	10.7	5.4	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	46.4	33.9	12.5	1.8	5.4	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	41.1	44.6	8.9	3.6	1.8	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	53.6	30.4	8.9	5.4	0.0	1.8	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

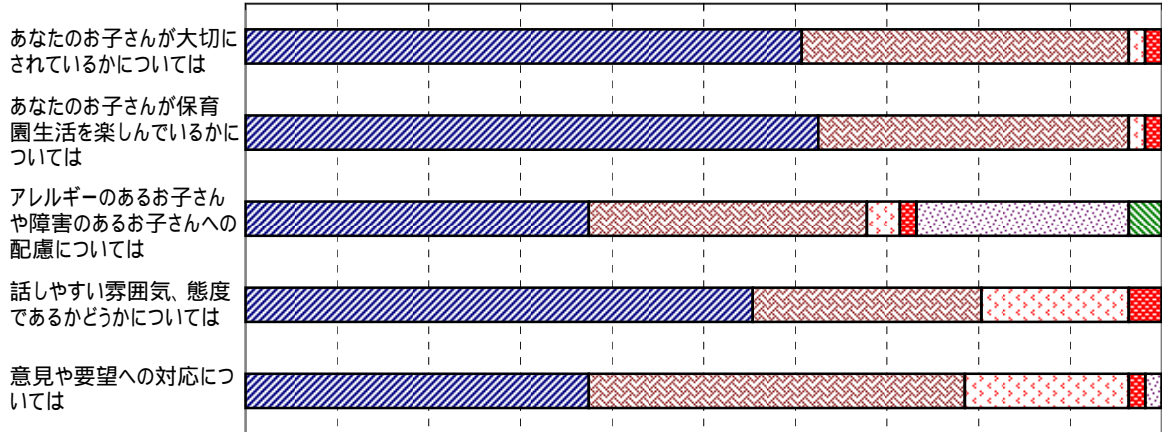
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	60.7	35.7	1.8	1.8	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	62.5	33.9	1.8	1.8	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	37.5	30.4	3.6	1.8	23.2	3.6	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	55.4	25.0	16.1	3.6	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	37.5	41.1	17.9	1.8	1.8	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

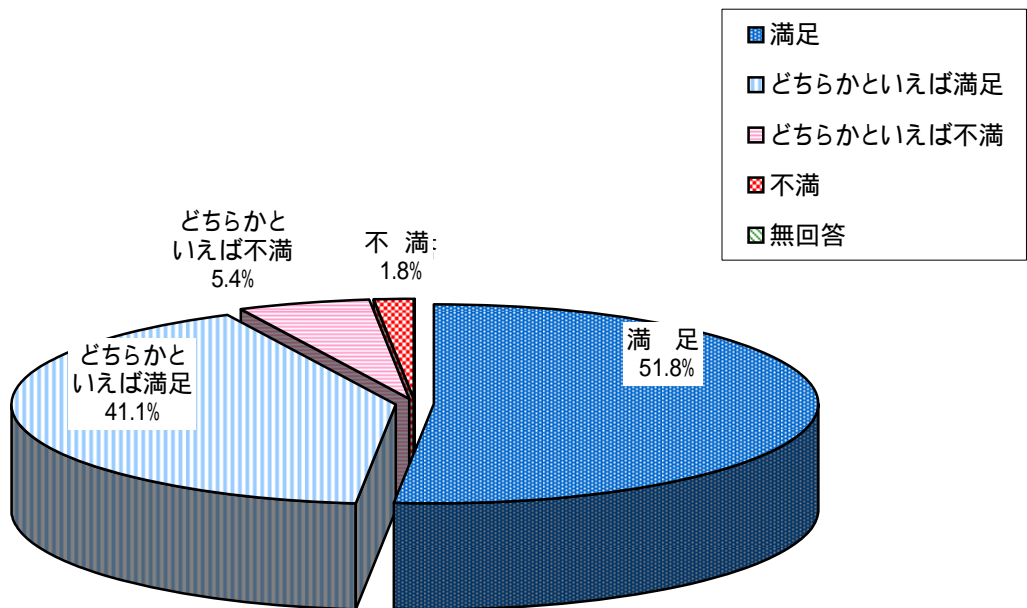
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	51.8	41.1	5.4	1.8	0.0	100



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 2011年1月11日（火）8：30～18：00 1月14日（金）8：15～17：30
観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス（だいち）

朝の時間は、保育士に絵本を見せてもらい、牛乳パックで作った電車などで遊んでいます。

朝の会で保育士が手遊びを始めると子どもたちが集まって来ます。保育士が「散歩こう、電車見よう」というと、子どもたちは「オー」「ワー」と喜んでいます

バギーに乗って、周りの景色を見ながらクイーンズスクエアのエレベーターまで行きます。ここからは保育士に背負われたり、手をつないで歩き、ホームを見下ろせて通行人のいない安全な場所へ行きます。子どもたちはガラスに顔を付け、電車が来るたびに「わー」と歓声をあげ、出ていくと「バイバイ」と飽きずに見て、両手を叩いたり腰を振ったり、歩いたり走ったりしながら遊んでいました。

給食は、配られた子どもから食べ始めます。食事はスプーンやフォーク、手づかみなどで食べます。自分で食べるようにしていますが、あまり進まない場合は保育士がスプーンにご飯を乗せたり言葉掛けをして励ましています。「ごはん食べる？」と聞いてイヤイヤをする子どもには無理に食べさせないようにしています。

1歳児クラス（そよかぜ）

登園の際、保育士は保護者と体調などの確認をしています。保護者と離れられずに泣いている子どももいますが、保育士が優しく抱っこして遊びに誘うと、泣き止んで仲間に加わります。

朝の時間は自由に絵本、汽車、積み木などで遊んでいます。保育士が「お片付けです」と言うと、おもちゃを一つ一つ運んで片付けます。遊び続ける子どもも、手遊び歌が聞こえると保育士の前に集まります。朝のあいさつでは一人ひとり名前を呼んでもらい、元気に返事をしています。

観察日は散歩に行き、横浜美術館の前の芝生で遊びました。芝生のまわりをぐるぐる走る子ども、立木の裏から覗く子ども、階段を上り下りしたり、階段の端に座って落ち葉で遊ぶ子どもがいます。保育士は危険がないよう見守りながら、一緒に走ったり、落ち葉を拾ったり、じっとしている子どもを遊びに誘うなどしています。子どもの持っている落ち葉を他の子どもが欲しがると、「貸してあげて」と声を掛けています。帰りは美術館の前をまっすぐ走ります。

園に帰ると、靴、靴下、帽子、上着などを、できる子どもは自分で、できない子どもは手伝ってもらって脱ぎます。手を洗って、おむつを替えてもらいます。

2歳児クラス（ふたば）

朝登園してからの自由時間は、絵本を読んでもらったり、数人でお店屋さんごっこをしたり、積み木やおままごとで遊んでいます。中に入れないうちには、保育士と一緒に遊びの輪を回り、興味を示したグループのそばで声を掛けて仲立ちをしています。

散歩に出かける前にトイレに行きます。ほとんどの子どもが自分でズボンを脱いで済ませることができ、保育士にズボンを揃えてもらい、自分ではけない子どもだけ保育士に手伝ってもらっていました。

散歩では、お掃除のおばさん、警備員さんにあいさつをし、先方も子どもたちに話しかけてくれます。公園につくと霜柱を探してコップに集め、持ってきたお湯をかけたり、踏んだりしてみます。その内に走り始める子どもが出てきて、みんなも加わり、「おしくらまんじゅう」をして身体を温めました。皆とても楽しそうです。帰り道は、植え込みの花や、大きなゴミ箱を台車に取り付けるところなどを眺め、子ども同士でいろいろな話をしながら歩きます。

園に戻ると、自由遊びになります。シジミやハマグリ、貝殻に千代紙を張った手作りのおもちゃで絵合わせをする子どもがいて、ほかの子どもも寄ってきます。保育士に勧められて、箸で豆をより分けるゲームや、色画用紙をはさみで切り、のりで貼っている子どももいます。皆、集中して頑張っています。

3歳児クラス（うみ）

自由遊びでは、3歳児はままごとコーナーに集まり、「入れて」「良いよ」「僕おとうさん」「私がお母さ

ん」と自分たちで役割を決めて、エプロンをつけたり、布でお土産を包んで遊んでいます。保育士はそばで見守っています。園内で年賀状のやり取りをしているので年賀状を書くグループもあり、出来た手紙を一人がまとめて、玄関のポストに入れに行っています。

給食の時間は、保育士が今日のおかずを説明し、1人ずつトレイに配膳して子どもの前に置いています。全員に配ってから、減らしたい子どものお皿からおかずを取り除け、少しは食べてみるように「一つだけは食べようね」「半分にするね」「小さくしてあげるから食べようね」と働きかけています。

けんかは子ども同士で解決していますが、片方の主張だけが通ることのないよう後から保育士が入って話をしています。「相手の気持ちを考えてごらん」「なぜ嫌だったか分かる」など、子どもの気持ちを相手に伝えて、双方が納得できるように努めています。

4歳児クラス(そら)

朝の会は円形になって座ります。観察日が連休明けだったので、保育士はお休みの間に何をしていたかを順番に聞いています。子どもが「した」と話すと、保育士は「それは『したのが楽しかったです』、ね」と文章で話すように促しています。なかなか話し出せない子どもには、ほかの子どもに「少し待ってあげようか」と呼びかけ、せかさず一人ずつ丁寧に話を聞いています。

給食の準備では、その日の当番が三角巾とエプロンをつけ、テーブルを拭いてリンゴの盛りつけを手伝います。また、トレイにご飯、おかず、汁物、デザート、箸をセットして、1人分ずつ席に運んでいます。

食後はそれぞれがトレイや食器を片付け、歯磨きをし、パジャマに着替えます。自分たちで布団を敷き、3、4歳児は一緒に午睡をしています。

5歳児クラス(たいよう)

5歳児は積極的に当番活動をしています。給食の当番のほかに、保育室のごみをまとめて捨てたり、幼児クラスの子どもが書いた手紙を配達することなどを行い、音楽リズムの準備や後片付けも手伝っています。

一日の流れを良く理解しています。給食の前に1人の子どもが気付いて「(時計の針が)9だよ」と言うと、自主的に片付けを始め、トイレに行く、自分のお絞りタオルを用意するなどの準備をしています。

午睡を10月からやめ、その時間には、子どもの興味に従って字や数字の練習をしています。

5歳児の保育室のテーブルが、使い方が悪くて壊れたため、観察日には子どもたちで相談して修理を手伝いました。保育士と5歳児全員で材料を店へ取りに行き、園に戻ってから順番にねじをはずして直しています。保育士や園長は物を大切にすることが育つよう、テーブルができるまでにかかる手間や時間について話しています。

3・4・5歳児合同の活動

観察日は3、4、5歳が合同で音楽リズムを行う日でした。

まず全員でホールの雑巾がけをし、保育士の音楽に合わせてリズム体操をします。走ったり、飛んだり、スキップをしたり、腹ばいになって進んだりし、4、5歳児はブリッジや側転も取り入れています。5歳児、4歳児、3歳児の順で同じ運動をするので、5歳児の姿が3、4歳児の良い手本になっています。3歳児と5歳児が手をつないでスキップをする際に、年上の子どもが年下の子どもの様子を見ながら動くなど、気遣う様子が見られます。

音楽リズムの後、この日は「お話し会」があり、ホールの真ん中に円形に椅子を並べて部屋を暗くし、ローソク1本を真ん中に立てて保育士に本を読んでもらいます。子どもたちは集中して聞いていました。

まとめ

乳児は元気に遊んでいます。子どもたちは園の生活に慣れ、保護者と別れて泣いても、保育士が朝の会を始めると自然に仲間に入っています。保育士はできないことは手伝い、できることはなるべく自分できるように援助しています。うまく遊べない時は、保育士が仲立ちをしています。

幼児は自分の遊びに集中しています。また、ルールや時間の流れを良く理解しており、年齢が上がるに従って自主的に行動することが増えています。子どもたちは穏やかに過ごしていますが、けんかや問題があった場合、保育士はなるべく子ども同士で解決できるように支援しています。保育士は子どもたちの話を良く聞くとともに、公平な態度で接しています。

事業者コメント

自己評価に訪問調査や聞き取り調査、また利用者アンケート調査と次々となさなければならぬ課題があり、緊張と不安の月日はさすがに疲労感を覚えた。

しかし、自らの保育を省みる機会を得たこと、当保育園が大切にしている保育の方向性が再確認でき、職種における役割の違いを超えて、職員の気持ちがひとつにまとまり、更に保育の質に関して意識を高める良い機会となった。

また、保護者とのコミュニケーションを重ね、信頼関係の中で子どもたちが育ち行く環境を整える必要性も感じた。更に、地域に根ざした頼りにされる施設として、その関わりを深めて行きたいと思う。

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目26番地 洋服会館2階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
